

## 麻酔科

### 1. スタッフ (2019年4月1日現在)

科 長 (教 授)	竹内 護 (子ども医療センター兼任)
外来医長 (准 教授)	五十嵐 孝 (中央手術部兼任)
医 員 (准 教授)	多賀 直行 (子ども医療センター兼任)
	(准 教授) 堀田 訓久
	(准 教授) 佐藤 正章
	(学内准教授) 門崎 衛 (子ども医療センター兼任)
	(講 師) 丹羽 康則 (中央手術部兼任)
	(講 師) 末盛 智彦 (子ども医療センター兼任)
	(助 教) 平 幸輝
	(助 教) 清水かおり
	(助 教) 大塚 洋司 (留学中)
	(助 教) 永川 敦士
	(助 教) 永野 達也 (子ども医療センター兼任)
	(助 教) 島田 宣弘
病院助教	篠原 貴子 (子ども医療センター兼任)
	方山 加奈
	吉積 優子
	橘木 浩平 (子ども医療センター兼任)
	杉本健三郎
	芝 順太郎
	須藤 智幸
	高橋 深雪
シニアレジデント	17名

### 2. 診療科の特徴

麻酔科の主たる業務は、当院中央手術室および子ども医療センター手術室での手術麻酔である。これに加え、血管内治療部における脳外科患者のカテーテル治療や、小児先天性疾患のカテーテル検査・治療や、長時間安静保持が困難な小児のMRI検査などにおいても、手術室外で出張麻酔を担当している。また集中治療部との協力の下、院内における気道確保困難症例や全身状態不良症例の管理も担当している。

2018年の総手術件数は9584件で、当科管理症例は7012件、うち全身麻酔症例は6239件であった。依然として緊急手術や小児症例の割合が高いのが特徴である。なお2018年秋からは、新館南棟の完成に伴い4室の新しい手術室を稼働しており、これに合わせ当科でも、麻酔担当枠を増加させ対応をしている。

手術内容の点では、成人肝移植手術や意識下開頭手術が始まり、カテーテルを用いた大動脈弁置換術(TAVI)、ロボット支援下手術といった高度医療の件数も増加しつつある。同時に周術期管理の質を高めるべく、超音波ガイド下末梢神経ブロックと経静脈的自己調

節鎮痛法や各種薬剤を組み合わせ、多角的な鎮痛アプローチによる術後管理を、積極的に取り入れている。

手術室外業務としては、従来のペインクリニック・鍼灸外来に加え、緩和ケア病棟患者に対するブロックの実施や、オピオイドを含む鎮痛剤の調整、また気道緊急症例への出張対応なども行っている。

#### ・施設認定

日本麻酔科学会麻酔科認定病院  
日本ペインクリニック学会指定研修施設  
心臓血管麻酔専門医認定施設

#### ・認定医

厚生労働省麻酔標榜医	竹内 護	他33名
日本麻酔科学会指導医	竹内 護	他13名
日本麻酔科学会専門医	橘木 浩平	他10名
日本麻酔科学会認定医	石川 美香	他5名
日本ペインクリニック学会専門医	五十嵐 孝	他2名
日本集中治療医学会専門医	竹内 護	他4名
心臓血管麻酔専門医	竹内 護	他3名
日本区域麻酔学会認定医	堀田 訓久	他3名
日本小児麻酔学会認定医	竹内 護	他4名
日本蘇生学会蘇生法指導医	五十嵐 孝	
日本救急医学会専門医	五十嵐 孝	他1名
日本小児科学会専門医	橘木 浩平	
日本外科学会外科専門医	芝 順太郎	
日本周術期経食道心エコー認定医	多賀 直行	他4名
日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医	佐藤 正章	他1名
社会医学系専門医	丹羽 康則	
日本緩和医療学会認定医	島田 宣弘	
American Society of Anesthesiologists, member	竹内 護	他1名
International Anesthesia Research Society, member	竹内 護	他1名
European Association of Cardiothoracic Anaesthesiologists, member	竹内 護	
The Society of Critical Care Medicine, member	多賀 直行	

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	60人
再来患者数	3,011人
紹介率	59.3%
手術患者外来術前診察	5588人
鍼灸外来	467人

2) 入院患者数

エピドラスコピーほか 4人

3) 手術症例病名別件数

エピドラスコピー

腰部脊柱管狭窄症	<u>1</u> 件
腰椎手術後症候群	<u>1</u> 件

脊髄刺激装置埋め込み術

腰椎手術後症候群	<u>2</u> 件
複合性局所疼痛症候群	<u>1</u> 件

くも膜下フェノールブロック

直腸腫瘍、転移性骨腫瘍	がん性痛	<u>7</u> 件
-------------	------	------------

腹腔神経叢ブロック

食道腫瘍	がん性痛	<u>1</u> 件
------	------	------------

4) 手術症例病名別治療成績

腰部脊柱管狭窄症	軽快	<u>1</u> 件
腰椎手術後症候群	軽快	<u>3</u> 件
複合性局所疼痛症候群	軽快	<u>1</u> 件
がん性痛	軽快	<u>6</u> 件
	不変	<u>2</u> 件

5) 合併症例

なし

6) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

なし

7) 主な検査・処置・治療件数

手術麻酔

全身麻酔（硬膜外麻酔併用を含む）	6239件
脊髄くも膜下麻酔（硬膜外麻酔併用を含む）	748件
伝達麻酔・その他	<u>25</u> 件

麻酔科外来処置

星状神経節ブロック	<u>51</u> 回
三叉神経ブロック	<u>51</u> 回
硬膜外ブロック	277回
トリガーポイント注射	<u>277</u> 回

その他のブロック	210回
鍼	467回
透視下各種ブロック	12回
スーパーライザー等	1100回
点滴	180回
その他の処置	<u>0</u> 回

8) カンファランス症例

手術患者術前カンファランス	245回
手術患者術後カンファランス	245回
症例検討カンファランス	<u>18</u> 回

9) キャンサーボード

なし

4. 2019年の目標・事業計画等

・麻酔業務と教育

医療技術の進歩による術式の多様化や、高齢化進行に伴う合併症保有率の上昇といった要因により、麻酔管理に求められる技術の高度化は進む一方である。そういった状況に対応しつつも、いかに患者の安全を確保しながら手術可能な状況を担保するか、麻酔科に求められる知識量は増加の一途をたどっている。

また昨年の外傷センター開設も影響して、緊急患者は増加しかつ患者層も多様化していることから、トリアージを含む急患対応能力が従来にも増して求められるようになりつつある。

今後は研修制度の変更を踏まえ、麻酔科医のみならず教育を介してレジデントの全身管理能力を高め、病院単位での医療の質の向上を目指す所存である。

・積極的なリクルート及び他科との交流

昨年度の新棟開設に伴う手術室新規稼働に伴い、麻酔科の仕事量は必然的に増加すると考えられる。そこで小児から高難度症例、緊急手術と多様な症例が経験できる研修施設としての魅力を前面に出し、一層リクルートに励んでいきたい。

また来年度は麻酔科以外からの各科若手医師の研修受入れを定期的に行う計画であり、これが病棟における急変症例発生時の対応能力向上のきっかけとなれば幸いである。